

平成 30 年度 紀の川流域懇談会 議事骨子

日 時：平成 30 年 9 月 13 日（木）

場 所：ホテルアバローム紀の国 2 階 鳳凰の間

★ 議事次第

1. 開会
2. あいさつ（和歌山河川国道事務所長）
3. 議事
 - 3-1. 河川整備計画の進捗点検について
 - 3-2. 工事進捗について
 - 3-3. 平成 29 年の出水概要
4. その他
5. あいさつ（紀の川ダム統合管理事務所長）
6. 閉会

★ 議事内容

1. 河川整備計画の進捗点検について（資料-1）

河川管理者が実施した点検結果の報告をしましたところ、出席委員より下記のような意見が出されました。

・(P30：環境③)

平成 29 年度のアユの遡上数が多い理由として、左岸デニール付バーチカルスロット式魚道での遡上が多かったためとされている。魚道の適正が遡上数の増加につながったと決めてよいのか。

→ 平成 29 年度の調査では、紀の川大堰左右岸に設置されているデニール付バーチカルスロット式魚道のうち左岸側の方だけが、特に遡上数が多かったという結果です。十分な分析はできていませんが、左右岸での遡上数は流速や水温等の違いによる影響と思われるものの、詳しくはまだわかっておりません。出水の影響も要因の一つと考えています。産卵時期 10 月～12 月頃に大きな出水があると、上流で産卵を控えている親アユが下流に流されてしまい、次の年の遡上数に影響を与えているのではないかと考えています。ここ数年は大きな出水がないため遡上数が増加していると考えられる。ただし、出水だけで決まっているとは考えておらず、海側の環境などを含めた複合的な要因によって遡上数が決まってくると思われますので、調査を継続し、要因について今後も分析していきたいと考えています。

・ (P23 : 環境①)

河川環境の様々なモニタリングが行われている。全体を通してまとめていく必要があると思われる。単年度ではできないので、準備をして進めていったほうがよいと思われる。国交省単独では難しいので、大学等と共同でまとめる方向で進めてはどうか。

→ 非常に貴重な意見なので、内部で検討いたします。

・ (P18 : 治水⑩)

近年大雨が増えているので、詳しいライブカメラ映像等は貴重な情報である。このようなライブカメラ等の情報が、町の避難勧告に行くまでの情報伝達の仕組みについて教えてほしい。

→ ライブカメラ映像はホームページで公表しているため、住民にホームページに見に来て頂くこととなります。公表していることを周知していくとともに、パソコンを使えない年代の方々には、自治体の巡回車による避難指示に頼らざるを得ないと考えています。国交省では、多くの方が携帯電話を持っていることを踏まえ、メールを活用し、河川水位や危険情報をプッシュ型で提供する取り組みを行っています。

・ (P18 : 治水⑩)

協議会の場で、町の末端まで情報伝達が行動につながるような仕組みを一緒に考えていただきたい。

→ はい、ありがとうございます。

・ (P11 : 治水①)

大滝ダム上流にどれだけの雨が降ったら、ダムが満杯になり、下流で浸水被害が発生してしまうのか。

→ 現在 1,200m³/s 放流を行っていますが、ダム下流の支川からの合流量も影響するため、ダムからの放流量だけで下流の浸水の有無は決まりません。ダム上流の雨量に関しても、洪水前の雨量などによってダムに流入する流量が変わるため、何 mm 降れば危ないということは一概に言えません。

・ (P11 : 治水①)

紀の川においても、平成 23 年の熊野川水系のような大雨が降る可能性があるため、堤防工事を早めることはできないのか。

どこの川も整備が充足しているわけではないので、段階毎に整備しなければならない。大滝ダムは今まで 1,200m³/s 放流で抑えてきたことは奇跡かもしれない。大滝ダムの運用開始時に放流量を 1,200m³/s に抑えた理由は、下流が整備されていないからか。

→ 当時は下流の被害を防ぐために 1,200m³/s を放流する暫定運用としました。下流の河道整備が完成すれば順次上げていこうと考えています。

・(P11：治水①)

特別に無堤部が多いのか。

→ 上流の奈良県域は掘込河道が多いですが、大滝ダム 1,200m³/s 放流以上になると一部で浸水します。一番危ないところから順次堤防を作っているのが現状です。

・(P11：治水①)

整備途中でも災害が発生する。現在も少しずつ整備されている現状を踏まえ、想定被害をチェックしたほうがよい。

→ 現状は流下能力を確認し、一番低いところから整備を行うスケジュールを考え、弱いところの整備が終われば、大滝ダムの洪水時放流量を上げていこうとしています。

大滝ダムの今の暫定操作を解消し、本来の能力に近づける操作に変えていく議論をやる必要があると考えています。

・(P11：治水①)

昨今の気象状況では、明日にでも大雨が降るかもしれず、被害が出るのがわかっているのだから、予算を付けて早く堤防を作られないのか。ダムが満水になると下流が越水することを踏まえ、予算を確保して来年度中に着手できないのか。懇談会としてこのような要望を出せないのか。

→ 整備に対するご意見をいただく場なので、早く進めるべきだという意見をいただくことは構いません。用地買収の協力が得られ、優先度が高いところであれば来年度にやることも考えられます。現在、一番堤防が必要なところは、着工しようとしています。全ての箇所で地元の環境が整っておらず、着工ができていないところもあります。物理的に予算も足りておらず、安全度が低いところからお金をつけているので手がまわらない箇所も残っています。ご意見としては、本当にありがとうございます。

・(P10～11：治水①)

流下能力を向上させるための対策は、下流の流下能力が不足しているのに、上流の対策を行っているケースがみられる。下流へのリスク移転がないことをどのレベルで確認しているのか。

→ 整備を行う箇所は、守るべきもの例えば要配慮者施設・病院の立地も見ています。

下流から順番にやるのが鉄則ですが、このような状況も踏まえてやっている箇所もあります。

安全性の確保にはいろんな観点があるので、それらを考慮した整備であるなら画期的なことといえる。下流へのリスク移転によって上流の整備が進まないことがよくあるので、よく考えていると思われる。

・ (P19 : 治水⑭)

減災対策協議会において、市町が避難勧告を出しても逃げてもらえないという話があったが、本当に危険な箇所を対象に避難勧告を出すと避難する割合が増えるが、市内全体に避難勧告を出すと、住民が自分で判断し、避難率が 1 割もいかないことが普通にある。どのような避難勧告を出しているのか、減災対策協議会において踏み込んで意見してあげてほしい。橋脚が写っているライブカメラがあったが、橋脚の管理者に了解をとって、橋脚に避難判断水位、氾濫危険水位の目安の線を入れることを提案する。

→ 避難の判断については自治体の首長もかなり悩んでいます。割り切って全域に避難勧告を出す首長や、非常に悩まれて避難勧告を出す首長など、様々な方がいます。本質的には、よくよく考えて出したほうがよいが、出さなかったことで、結果を責められる首長も非常に多く、今の首長さんは大変だと思います。これから、色々な場面で色々な意見交換をしていきたいと考えています。

・ (P37 : 環境⑥)

和歌山市内の水質改善のための導水計画が、本川の取水条件と合わなかったので、できなかったと報告があった。取水条件はどのような設定になっているのか。

→ 紀の川に新たに水利権を設定できないので、豊水の分だけ大門川に導水するものとしています。

非かんがい期の豊水となると条件が厳しそうな気がする。水利用の実態をふまえて踏み込むこともあり得る。

・ (P17 : 治水⑦)

大規模な耐震対策は重要であるが、小規模な施設の耐震対策の取り組みは行っているのか。

→ 堤防や樋門などの河川管理施設が地震で壊れるおそれがあり、それによって水害が発生することがないという観点から、堤防・樋門・水門が地震に対して壊れないように対策を講じてきています。

・ (P18 : 治水⑩)

ライブカメラの利用に関し、河川水位を監視する以外の役割があるのか。不法投棄の監視にも役立てられないか。

→ 出水時に河川管理施設に異常がないか、水位がどうか、情報を得たいときに見るために設置しています。常時人をはりつけられないので、通常の監視というところまでは使っていないのが現状です。

・(治水事業について)

ステップごとに事業の効果を評価できないか。

→ 例えば、大きな事業である岩出狭窄部対策が完成した段階で効果を発信するなど、節目節目で発信していくことを考えたいと思います。

2. 工事状況等について(資料-2)

河川管理者が工事進捗について報告をしましたところ、出席委員より下記のような意見が出されました。

・(P7~9: 岩出狭窄部対策)

この工事によって川幅が広がるのか。

→ 川幅は変わらないが、高水敷を掘削するので流下能力は増加します。

・(P7~9: 岩出狭窄部対策)

下流のJR和歌山線は大丈夫なのか。

→ 昨年度も指摘を受けたが、JRと協議を行い、そこで問題ないであろうと回答をいただいています。

→ 低水路内に2つの橋脚があり、以前は深く掘れており、根継の補強を重ね対策をしているのでJRとしては大丈夫であろうと判断しています。拡幅水路が今回掘るところであり、橋脚にはそれほど悪い影響を及ぼさないと考えています。

・(P7~9: 岩出狭窄部対策)

他の狭窄部対策の予定はどうなっているのか。

→ 次に藤崎、小田を行う予定です。

3. 平成29年の出水概要(資料-3)

河川管理者が平成29年の出水状況について報告をしました。特に意見は出されませんでした。

以上